

全国高校総体

全国高校総合体育大会（インターハイ）第22日は15日、富山市総合体育館などで行われ、県勢は卓球団体戦の準決勝で、明徳女子が香ヶ丘リベルテ（大阪）に3-1で勝って決

勝に進出した。明徳男子は準決勝で、野田学園（山口）に0-3で負けた。女子ダブルスの青井さくら・白山亜美組（明徳義塾）は準々決勝まで進んだが敗れた。空手道の男子団体組み手の高知工は1回戦で敗退した。

バスケットボール女子決勝は桜花学園（愛知）が94-65で大先輩英女学院を下し、3大会連続（中止の昨年を挟む）25度目の優勝を果たした。

明徳女子決勝へ 男子は準決勝敗退

卓球
▽男子団体準決勝
（富山市総合体育館）

上沢菜 0 11 3 10 13 11 12 3 赤 江	明徳義塾 3 2 1 1 0 1 1 テリヘル 香ヶ丘	四天寺 3 3 0 岡就 山美	▽女子団体準決勝	徳田 3 11 11 13 9 7 9 11 11 1 横部	三木 3 15 5 11 18 13 11 9 16 1 新名	徳芝 3 11 11 9 11 4 4 11 9 1 藤安 元江	▽同シングルス1回戦	太藤 3 11 14 11 6 12 6 0 紀草 院東北	徳田 3 11 11 13 9 7 9 11 11 1 横部	三木 3 15 5 11 18 13 11 9 16 1 新名	徳芝 3 11 11 9 11 4 4 11 9 1 藤安 元江	▽同シングルス1回戦	太藤 3 11 14 11 6 12 6 0 紀草 院東北	徳田 3 11 11 13 9 7 9 11 11 1 横部	三木 3 15 5 11 18 13 11 9 16 1 新名	徳芝 3 11 11 9 11 4 4 11 9 1 藤安 元江
--	---	--------------------------	----------	---	--	--	------------	---	---	--	--	------------	---	---	--	--

【男子団体準決勝 明徳義塾-野田学園】フォアで攻める明徳の第2単・新名（富山市総合体育館）



心も鍛えて3位入賞 明徳男子

7年ぶりの準決勝の舞台で、明徳男子は野田学園（山口）に0-3のストレート負け。苦しい戦いの中、前日のような逆転劇の再現を目指したが、「そんなに甘くない。実力の差です」。佐藤建剛監督は潔く完敗を認めた。

回転が読みづらいサーブに対応できず、レシーブを崩された。二つの単で「1勝1敗なら勝機あり」と踏んでいたチームはあえなく2敗。ジュニアを繰り返した末、競り負けた第2単・新名は「守りに入ってしまっただ。大事にしようとしてきた」と悔いた。

それでも見事な3位入賞だ。これまで4強の壁にはね返されるたび、建剛監督は「気持ちよく足りない」と口にしてきた

青井 3 11 12 11 8 1 10 3 11 1 由本 白青 山井 3 11 11 9 11 11 9 6 11 11 9 2 赤司 江白 山 3 11 8 13 12 8 11 11 10 1 村上	上
--	---

▽同ダブルス4回戦	白青 3 11 11 12 11 6 9 14 5 1 鶴甲 瑞愛知 穂ほ知 徳ほ知 大み 岡斐	▽準々決勝	吉井 3 11 11 11 8 8 8 0 白青 山井	▽決勝	大井 3 3 1 天王寺 中菅 大阪・四森沢
-----------	---	-------	---	-----	------------------------------------

「山奥のチーム」強豪下す

3大会ぶりに決勝進出を決めた明徳女子。準決勝では、大阪で四天王寺と張り合う強豪、香ヶ丘リベルテに3-1と快勝しながら、メンバーは「まだ次があるので」。浮つくことなく、決戦の舞台を見据えた。

リベルテには下リーグの日本生命でプレーし、東京五輪代表の平野美宇や早田

ひなりのトレーニングをもにすメンバがいる。練習環境に恵まれたチームに対し、「山奥のチームが勝つた（佐藤利香監督）。明徳には才能を凌駕する強さがある。

チームを勢いづけたのは第2単の青井。強烈なドライブや相手を崩すレシーブで第2ゲームを奪って1-1に戻すと、第3ゲームは9-10から3連続ポイント。第4ゲームは奪われたポイントがたった1。冷静な分析で、「フォアは豪快だけどバックが弱い。そこを攻めた」。終盤は相手を戦意喪失させる巧みな試合運びだった。

その青井は白山と組んだ複でも勝利。前半苦しかった。

ナックルサーブにも、利権監督の「中途半端に受けず、自信を持ってレシーブを」の助言を美談。ゲームカウント1-2の劣勢から、相手の弱点も突き、逆転した。

第1単の上沢菜も敗れたものの、相手エースから2度ゲームポイントを握るなど「格上ともやり合えた」。負けるとしてもただでは終わらないその姿に、仲間たちも「すごく勇気づけられた」。

春の全国選抜で敗れた借りて返した、再び才能集団に立ちむかう。（谷川剛章）

が、今年のチームは最後まで諦めなければ、勝機は来ることを証明した。3年安江が鍛錬の日々を振り返り、「反発したこともあったけど、建剛先生を信頼してきてよかった。中学から明徳に来て、いまが一番幸せです」

2年の主将斉藤が言う。「壁を乗り越えたら、また次の壁」と欲が出る。自分たちに足りないパワー、スピード、技術を補っていきたい。さらなるレベルアップを目指して、鍛えていく。

（谷川剛章）